

## ASEANから中国へのシフトは進むのか

和田 善寛 *Wada Yoshihiro*

(財)国際貿易投資研究所 研究員

97年のアジア通貨危機から5年が経過した。ASEAN諸国の回復過程はまちまちで、マレーシアやタイのように回復基調にある国もあれば、インドネシアのように低迷を続けている国もある。一方、中国は91年以降年率7%以上の成長を続けており、外資系企業の進出、そこでの生産、輸出により「世界の工場」とさえ呼ばれるようになってい

ている。ASEAN地域は、通貨危機までは「世界の工場」「世界の成長センター」と目されていた。急成長を遂げていた東アジア諸国は「世界の工場」の座を明け渡したかの感がある。今後も先進国からの直接投資が中国へ集中し、ASEAN諸国から中国へ生産拠点がシフトしてしまうのであろうか。いくつかの統計、アンケート調査から生産拠点の中国シフトの有無が読み取れるか

を検証する(注1)。

最も魅力的な投資先

中国は「魅力的な投資先」として米国を抜いて第1位になったという調査結果がある。これは米国の経営コンサルティング会社A.T.Kearneyが2002年9月に発表した“FDI Confidence Index”によるものである(注2)。

ここで中国の順位を押し上げた要因として、比較的安定した政治環境、力強い経済成長(注3)、WTOへの加盟、2008年オリンピックの誘致が指摘されている。一方、懸念される要因としては、金融システムの脆弱さと巨額の不良債権、問題の多い国営企業、不十分な法・規制体制が指摘されている。

対照的に、ASEAN諸国の順位はい

ずれも 20 位以下に落ち込んでいる。その中で最高順位をつけたタイでさえ 20 位で、2001 年 2 月調査の 14 位から低下している。

### 伸び悩む対 ASEAN 投資

近年の ASEAN4 力国および中国の投資受入額の推移をまとめたのが表 1 である。ASEAN4 力国への直接投資は各国とも 97 年のアジア通貨危機まで、増加基調で推移した。しかし、97 年もしくは 98 年をピークに減少傾向を示している。

一方、中国への直接投資の動向をみると、対中直接投資が急増し始めたのは 92 年以降であり、92 年の時点で、直接投資流入額はすでにマレーシアの 2 倍以上となり、ASEAN4 力国の投資額の合計を上回っている。これは同年に外資の進出規制の緩和が行われたことが大きな要因と考えられる。中国へ

の直接投資の流入額のピークは 97 年で、98 年以降は減少傾向にある。しかし、中国政府の統計によると、2001 年の直接投資の流入額は国際収支ベースで 442 億ドルとなり、前年の 384 億ドルを上回った。

ASEAN 地域における主要投資国である日本からの投資動向を財務省の届出統計でみたのが表 2 である。97 年の通貨危機を契機に翌 98 年以降 2000 年までは、ASEAN 諸国向けの直接投資は趨勢的に減少もしくは伸び悩んでいる。2001 年度には回復の兆しがみえるが、フィリピンを除き、危機前の水準を大きく下回っている。マレーシア、インドネシアは、90 年代前半の水準と比べても、落ち込みが目立っている。

日本からの中国向け投資をみると、95 年度までは増加基調であったが、その年度をピークに 99 年度まで減少を続けている。99 年度を底に回復に転じ、2001 年度は前年度と比べて大

表 1 各国の対内直接投資（国際収支ベース）

（単位：100 万米ドル）

	1990 年	1991 年	1992 年	1993 年	1994 年	1995 年	1996 年	1997 年	1998 年	1999 年	2000 年
インドネシア	1,093	1,482	1,777	2,004	2,109	4,346	6,194	4,677	356	2,745	4,550
タイ	2,444	2,014	2,113	1,804	1,366	2,068	2,336	3,895	7,315	6,213	3,366
フィリピン	530	544	228	1,238	1,591	1,478	1,517	1,222	2,287	573	2,029
マレーシア	2,332	3,998	5,183	5,006	4,342	4,178	5,078	5,137	2,163	2,473	1,762
中国	3,487	4,366	11,156	27,515	33,787	35,849	40,180	44,237	43,751	38,753	38,399

（資料）IMF, “Balance of Payments Statistics”

表2 日本の対外直接投資（届出額、年度）

（単位：億円）

	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年
インドネシア	2,142	952	1,808	1,548	2,720	3,085	1,378	1,024	457	576
タイ	849	680	749	1,196	1,581	2,291	1,755	910	1,029	1,102
フィリピン	210	236	683	692	630	642	485	688	506	946
マレーシア	919	892	772	555	644	971	658	586	256	320
中国	1,381	1,954	2,683	4,319	2,828	2,438	1,363	838	1,099	1,802
世界計	44,313	41,514	42,808	49,568	54,094	66,229	52,169	74,390	53,690	39,548

（資料）財務省「対外及び対内直接投資状況」

幅に増加している。ピーク時の水準は回復していないものの、前年比 64% 増と高い伸びを示している。日本の総投資額が減少している中で、中国への投資が大きく増加している点は注目される。

#### 中国での事業拡大が加速

開発金融研究所が実施したアンケート調査（注4）によると、中国進出日系企業の7割以上が中期的に事業を拡大する予定としている。しかし、ASEAN4（注5）でも、約半数の企業が同様に事業の拡大を検討し、撤退を検討しているのは2.3%に過ぎない。同アンケート調査によれば、中期的な事業展開として、中国では新規拠点の設立に、ASEAN4では既存生産機能の強化に重点を置くとする企業が多い。ASEANについては、生産・販売の基

盤は出来上がっており、AFTAの進展から、域内生産拠点の統合廃が検討されているようである（注6）。また、中期的な生産拠点としては、5割強の企業がASEAN4よりも中国のほうが魅力的だと指摘している。

同アンケート結果で、ASEAN諸国を生産拠点として魅力を感じる理由として、マーケットの成長性、確立された生産基盤、これまでの投下資本、中国一極集中のリスク回避などが指摘されている。

確立された生産基盤をみる一つの目安として、2000年末における日本からの直接投資の残高を表3に示した。中国が9,995億円であるのに対して、ASEANはタイ、マレーシアの合計で1兆77億円となっている。中国における残高は増加傾向にあり、タイ、マレーシアの残高の合計に匹敵する規模になっている。しかし、既存の生産基

盤としては、ASEAN 諸国でも十分確立されている。

経済産業省の「第31回海外事業活動調査」によると、2000年度における日系現地法人の撤退企業数は、全地域では696社（調査対象現地法人数：14,991社）であった。うち北米が194社（同：3,316社）と最大で、中国は110社（同：2,530社）、ASEAN4は69社（同：2,478社）である。ASEANと比べ、中国へは同規模の進出に対して、撤退数は約2倍弱である。このことから、中国へは進出企業も多いが撤退企業数も多いことがわかる。

表3 直接投資残高（2000年末）  
（単位：億円）

インドネシア	5,475
タイ	5,477
フィリピン	2,336
マレーシア	4,600
中国	9,995

（出所）国際貿易投資研究所「世界主要国の直接投資統計集」平成14年3月

#### ASEANの活路は対中共存か

以上をまとめると、中国向け投資の伸び率は高く、投資額も大きい。そして、多くの企業が投資先として有望視している。その一方で、中国では撤退

もASEANより多い。また、これまでの投資のストックや、中国一極集中のリスクの回避を重視する企業も看取される。

これらをふまえて今後の展開を考えると、中国への投資は今後も拡大していくと思われる。しかし、ASEANへの投資が中国への投資に完全に転換されてしまうということはなく、中国シフトと対ASEAN投資が並行して進むというのが、現時点で最も考えられる展開であろう。

その場合、ASEAN諸国にとって最も望ましい状態は、中国シフトは起こるかもしれないが、中国での生産の拡大に対応し、ASEANが中国への部品や原材料の輸出基地となるという展開ではないだろうか。

- （注1）ここでは統計の制約から直接投資を生産拠点への投資と読み替える。
- （注2）同調査は30カ国、19業種にわたる企業の上級役員を対象に調査を行ったものである。
- （注3）一方で、公表された成長率に対する信頼性への懸念もある。
- （注4）国際協力銀行開発金融研究所「開発金融研究所報」第9号、2002年1月。
- （注5）タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン。
- （注6）ただし、中国においても重複生産拠点の統廃合が同様に検討されているという結果がある。